

声優芸能科 俳優養成コース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	身体感情表現 I	74	2	4
講義	音声技法 I	74	2	4
講義	言語感情表現 I	74	2	4
演習	課題台本ゼミナール I	74	2	4
講義	ヴォーカル基礎知識 I	74	2	4
実習	ヴォーカル I	74	2	2
演習	ボディサイエンス I	74	2	4
実習	ダンス基礎	74	2	2
講義	表現パフォーマンス I	74	2	4
講義	俳優基礎 I	74	2	4
実習	映像演技 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	身体感情表現 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	身体感情表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡の演劇劇団に所属。俳優として22年間活動。東京、福岡などで現在も活動中。舞台演劇・TVドラマ・TVCMに自ら出演の他、CMナレーションや民放番組ナレーションも担当。俳優としての表現力と舞台経験を活かした講義内容となっている。				
授業概要					
①シアターゲームやインプロワークショップを実施、都度フィードバックを行って感情表現力を高めていきます。 ②エチュードを行いながら、様々なシチュエーションでの適切な感情レベルを探っていきます。 ③喜怒哀楽を、身体・セリフの効果的な使い方と適切に伝えられるように表現していきます。					
到達目標					
・表現の下地となる豊かな感情・喜怒哀楽を、他人が見て理解できるレベルで表現、またその強弱をも表現できるような技術を習得する。 ・喜怒哀楽以外の心の中にある様々な感情を、外に向かって表現する方法・技術を習得する。 ・演劇・舞台などにおける基礎を身につけ、人前で表現する羞恥心をとりのぞいていく。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・インプロワークショップ ・集中力を高める訓練
【前期】 5～8回目	・シアターゲーム(STOP&GO、魔法使いと弟子など)
【前期】 9～12回目	・口語演劇 ・言葉を使った感情表現
【前期】 13～16回目	・エチュードを中心に、表情を使った感情表現
【前期】 17～19回目	・エチュードを中心に、表情を使った感情表現② ■前期試験：喜怒哀楽エチュード・感情が、表情や身体表現で他人に適切に伝わっているかチェック
【後期】 20～23回目	・エネルギー放出 ・脚本演技 ※シアターゲームは引き続き実施
【後期】 24～27回目	・エネルギー放出2 ・脚本演技→進級制作に向けた脚本選定 ※様々な役を交代で演じていく
【後期】 28～31回目	・他人から見た自分を研究 ・脚本演技 ※一つの決まった役を演じていく
【後期】 32～35回目	・進級制作に向けて ※一つの作品を仕上げている
【後期】 36～37回目	・進級制作に向けて ※一つの作品を仕上げている ■後期試験：脚本演技・適切な感情レベルの表現がきちんとできているかチェック
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する実技試験により「平常点 / 感情表現 / 感情コントロール / エネルギー放出 / 自己理解」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	演技に必要な要素のひとつに「リアリティ」があります。適切なシチュエーションには、適切な感情の表現レベルがあり、それがきちんと観客に伝わると「リアリティ」が生まれます。 人の心を動かすためには、役者自身の心が動いていないといけません。 そのために必要なレッスンは「身体感情表現」です。人に見せまいとしていた感情を外へ表現することができるようになります。頭で演じるのではなく、心で演じ、リアリティのある演技のできる役者を目指しましょう。
備考	都度用意した脚本を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音声技法 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音声技法 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優基礎コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	声優事務所「ぷろだくしょんバオバブ」所属。TVアニメ「恋姫†無双(主役・関羽役)」、TVアニメ「ななついろ★ドロップス pure!!(小岩井フローラ役)」など出演作品多数。アニメーション声優、洋画吹替声優、舞台、CMナレーションなどで、2000年より活動中、現在に至る。声優としての活動経験を活かした講義内容となっている。				
授業概要					
<p>①「日本語の発声レッスン」の教材等を使い、発声・発音の基礎を学びます。 ②表現の基礎となる、言葉に対する知識の幅を拡げ実践できるようにしていきます。</p>					
到達目標					
<p>・標準語の習得。 ・声、言葉を使うプロとして土台となる、発声、発音の基礎を、頭と身体すべてで理解し実践していくことで、表現者に必要な知識と技術を修得する。 ・一人一人長所と短所を知覚し、それを伸ばしていく。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・腹式呼吸・呼吸調節・調音・母音・連母音・母音の無声化・鼻濁音・発声基礎練習・外郎売を取り入れる
【前期】 5～8回目	・腹式呼吸・呼吸調節・発声基礎練習・調音練習・外郎売
【前期】 9～12回目	・腹式呼吸・呼吸調節・発声基礎練習・調音練習 ・外郎売の暗唱の完成
【前期】 13～16回目	・腹式呼吸・呼吸調節・発声基礎練習・調音練習・外郎売の暗唱 ■前期試験：前期内容の理解度を含めた実技テスト、筆記テスト
【前期】 17～19回目	夏休み明け確認{・腹式呼吸・呼吸調節・調音・母音・連母音・母音の無声化・鼻濁音・発声基礎練習(外郎売)}
【後期】 20～23回目	・腹式呼吸・呼吸調節・調音・母音・連母音・母音の無声化・鼻濁音・発声基礎練習(外郎売) ・個々の五十音の発声、発音チェック、課題徹底。
【後期】 24～27回目	・発声基礎練習・個々の五十音の発声、発音の課題徹底。
【後期】 28～31回目	・共通課題作品練習・発声基礎練習
【後期】 32～35回目	■後期試験：全期通して理解力のチェックおよび作品読解を含む音読実技試験：発声基礎練習・個人課題確認、実践徹底。
【後期】 36～37回目	・発声基礎練習・個人課題振り返り、2年へ向け春休み課題の周知
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 発声 / 発音 / 授業理解度 / 基礎訓練の取り組み方」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	言葉で表現する人にとって、基礎になる発声・発音の学びは、決して欠かすことは出来ません。個々によりその方法は細かく違いますが、自分の体とメンタリティーと向き合い、プロの表現者として、一人の社会人として、魅力のある言葉を話せる人を目指してください。常にご自分を磨いていきましょう。
備考	「日本語の発声レッスン」「日本語発声アクセント辞典」等 使用

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	言語感情表現 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	言語感情表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡の劇団で演出を担当。福岡という地方で生まれた舞台を、別都市で上演することにこだわり、土地の空気を感じながらリメイクし、ツアー公演を行う。演出経歴16年。現在に至る。日本演出者協会主催の演劇祭による韓国戯曲の演出や、海外公演での舞台創作・演出家としても活躍。舞台俳優として、また舞台演出としての活動経験を活かした講義内容となっている。				
授業概要					
①俳優に必要な筋力・体幹・呼吸のトレーニング ②エチュード・インプロを使った、登場人物の関係性とシチュエーションの創作 ③戯曲の読み解き(リーディング・試演) ④作品鑑賞					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 俳優として、どんな作品をつかっていきたいかを考える。 俳優に必要なコミュニケーション力と思考方法を獲得する。(自分と他者、環境などを振り返り、言語化できるようになる) 空間を意識した発声(年間で継続的に実施) 戯曲の読み方を獲得し、創作意図を理解、解釈して演技で表現する。 なるべく多くの作品に読む・観る・演ずる形で触れ、様々なキャラクターを演じられる基礎を築く。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	<ul style="list-style-type: none"> 空間を意識した発声と柔軟(年間で継続的に実施) 呼吸と体幹のコントロールするための訓練(スローモーションやタイガーウォーク・年間で継続的に実施) テーブルゲームをつかったコミュニケーションとインプロゲーム・エチュード
【前期】 5～8回目	<ul style="list-style-type: none"> 名詞、形容詞、ト書きから戯曲の成り立ちを考える。 資料映像を使い、表現の違いを分析する。 実生活に基づいた演技と再現性をエチュードを通して体感する。
【前期】 9～12回目	<ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞(野田地図『赤鬼』鑑賞) ■実施日:6/20(月) 国内戯曲を読む・演じる①(野田秀樹『半神』)
【前期】 13～16回目	<ul style="list-style-type: none"> 国内戯曲を読む・演じる②(田辺剛『建築家M』) キャストイング・本読み・ディスカッションを通して、長編舞台作品の創作を経験する。 ■前期試験:作品鑑賞で扱った『赤鬼』から出された課題台詞を演じる。
【前期】 17～19回目	<ul style="list-style-type: none"> 国内戯曲を読む・演じる②(田辺剛『建築家M』) 全編創作しきることを目標とし、試演会をおこなう。
【後期】 20～23回目	<ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞『恋に落ちたシェイクスピア』のレポート発表 ライブラリーにあるシェイクスピア作品を読む シェイクスピアにおける台詞の表現(長い台詞と傍白台詞の違い)
【後期】 24～27回目	<ul style="list-style-type: none"> シェイクスピアにおける台詞の表現(長い台詞を使った表現の変化を創作・発表) シェイクスピアの台詞を使って、相互に演出を行う。
【後期】 28～31回目	<ul style="list-style-type: none"> シェイクスピア作品をワンシーン創作する。
【後期】 32～35回目	<ul style="list-style-type: none"> 色々な文章表現を音にする① 社説の朗読を通して、文章が持つパブリック性とそれに合わせた表現を考える。 ■後期試験:映画『聖杯たちの騎士』を冬休み中に鑑賞し、作品分析を発表、レポート提出
【後期】 36～37回目	<ul style="list-style-type: none"> 色々な文章表現を音にする② 絵本、短歌を通して、作品として一度完成したものを、俳優としてどう表現するかを考える。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/脚本読解力/演出意図の理解/言語化/演技力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	俳優という職業は、各現場において、様々な角度から作品理解する力と表現力が求められます。脚本や演出、監督の言葉だけを材料とするのではなく、自分が思い描き、考えて演じたキャラクターが、一体どういうものになるのか、それを他者にどれだけ伝えられるのか、なるべく多くの戯曲に触れながら、実践的に作品を創作し、提案力のある俳優を目指しましょう。また、創作現場外での準備、自主創作・稽古への取組みと考え方を身に付けていきましょう。
備考	夏休み課題:映画『恋に落ちたシェイクスピア』を鑑賞し、レポートを提出。 この講座は必ず動きやすい服装で参加してください。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	課題台本ゼミナールⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	課題台本ゼミナールⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡の演劇劇団に所属。俳優として22年間活動。東京、福岡などで現在も活動中。舞台演劇・TVドラマ・TVCMに自ら出演の他、CMナレーションや民放番組ナレーションも担当。俳優としての表現力と舞台経験を活かした講義内容となっている。				
授業概要					
<p>①年間3本以上の戯曲台本を使用し、役の心情や行動原理を理解すると共に、観客の視線を意識した演技を習得していきます。</p> <p>②舞台制作における板上での立ち居振る舞いや、制作スタッフの動きなどを学び、様々な方面から舞台というものを学習していきます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・声優や俳優に必要な表現力を、身体を使用した演劇を通じ習得する。 ・台詞を読み上げ、身体を使って喜怒哀楽の感情を表現するために必要な技術を身につける。 ・演劇に必要な基礎としての発声・滑舌・姿勢・体幹を手に入れる。 ・脚本をしっかりと読み取り、役の感情を的確に表現できる。 ・役者として、制作スタッフとの連携をもって作品が完成するということを理解して行動する。 					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	・演劇基礎ワークショップ ・脚本を使用した演技□				
【前期】 5～8回目	・脚本を使用した演技(シーン立ち上げ・半立ち)				
【前期】 9～12回目	・エチュード(一本橋、押し売り 言葉限定等)				
【前期】 13～16回目	・脚本を使用した演技→セリフ入れ				
【前期】 17～19回目	・脚本を使用した演技 ■前期試験: 脚本演技				
【後期】 20～23回目	・進級制作に向けて※本読みと配役決め				
【後期】 24～27回目	・進級制作に向けて※半立ち稽古				
【後期】 28～31回目	・進級制作に向けて※立稽古、衣装決め				
【後期】 32～35回目	・進級制作に向けて※通し稽古、照明、PAとリハーサル				
【後期】 36～37回目	・進級制作に向けて ■後期試験: 脚本演技。				
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 台詞まわし / 姿勢・体幹 / 協調性 / 脚本解釈」の5項目の到達度を総合的に評価する。				
学生へのメッセージ	観客に想いを伝えるためには、発声、滑舌などの基礎を身につけ、文脈に沿った演技ができているかが大切です。また演技の邪魔をしない、しなやかな身体としっかりした体幹が必要となります。基本的なワークショップからひとつずつ丁寧に学び、総合的な演技力を習得していきましょう。				
備考	他都度用意した脚本を使用。				

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカル基礎知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	ヴォーカル基礎知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。業界歴13年で、ミッキー吉野(コダイコ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、基本的な発声、歌唱」の指導を行う。				
授業概要					
①ヴォーカルの基礎発声を、頭と体で学びます。 ②呼吸法、口の開け方、口角、喉仏の位置など、頭で理解し歌唱に対応した発声技術を習得します。 ③ウイスパーやビブラートなどのテクニックにも取り組みます。 ④基本的な音楽理論を学習し、音楽をアカデミックにとらえる力を付けます。					
到達目標					
・歌うための準備として、発声の仕組みを理解し正しい発声法を身につける。 ・声の響きの強弱や揺がりをコントロールできる体の使い方を習得する。 ・口角、唇、舌の動きの強化をする。 ・はっきりとした母音・子音の発音をするための、唇や舌、喉仏のコントロールができるようになる。 ・基礎的な音楽理論を理解する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・発声の仕組み、基本姿勢、音域チェック、声区基本発声
【前期】 5～8回目	・チェストボイス発声トレーニング(母音アオウエイ) ・音楽理論基礎(譜面の読み方)
【前期】 9～12回目	・ファルセット発声トレーニング(母音オ・子音FH) ・音楽理論基礎(調性・音階)
【前期】 13～16回目	・ヘッドボイス発声トレーニング(母音ウオイヤエ・子音GNM) ・音楽理論基礎(様々なリズム)
【前期】 17～19回目	・ヘッドボイス発声トレーニング(母音ウオイヤエ・子音GNM) ■前期試験: 発声の仕組み・自分の体の理解/チェストボイス・ファルセット・ヘッドボイスチェック/理論理解度チェック
【後期】 20～23回目	・ミドルボイス発声トレーニング・スライド ・音楽理論基礎(ハーモニー)
【後期】 24～27回目	・リズム発声トレーニング(クリック・オモテウラ・ファンク・三連系) ・音楽理論基礎(楽曲のジャンル)
【後期】 28～31回目	・子音発声トレーニング(唇音MBP・舌音SZTDNR・牙音KG) ・音楽理論基礎(楽曲の構成)
【後期】 32～35回目	・特殊発声トレーニング(ウイスパー・ビブラート・ディストーション)楽曲使用
【後期】 36～37回目	・特殊発声トレーニング(ウイスパー・ビブラート・ディストーション)楽曲使用② ■後期試験: 唇・舌・牙音の理解/リズム発声・特殊発声のチェック/理論理解度チェック
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 音楽理論理解 / 発声 / beat感 / 母音子音」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声は正しいトレーニングのもとに行われなくては、効果もなく逆に喉を傷めてしまいます。将来声の仕事に就くためにとても大切な科目です。発声に必要な様々な筋肉がありますが、セリフを言うときや歌を歌うときに自在に筋肉が使えるように、普段から鍛えておかなければなりません。正しい発声法を身につけて、無理なく自分の音域も広げていきましょう。また、楽譜を渡されてもすぐに歌えるように、音楽理論も並行して学んでいきます。
備考	必要に応じて、CDや楽譜などを使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカル基礎知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	ヴォーカル基礎知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出される。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。現代のアーティストに必要な知識を盛り込んだ講義内容となっている。				
授業概要					
①ヴォーカルの基礎発声を、頭と体で学びます。 ②呼吸法、口の開け方、口角、喉仏の位置など、頭で理解し歌唱に対応した発声技術を習得します。 ③ウイスパーやビブラートなどのテクニックにも取り組みます。 ④基本的な音楽理論を学習し、音楽をアカデミックにとらえる力を付けます。					
到達目標					
・歌うための準備として、発声の仕組みを理解し正しい発声法を身につける。 ・声の響きの強弱や拡がりやコントロールできる体の使い方を習得する。 ・口角、唇、舌の動きの強化をする。 ・はっきりとした母音・子音の発音をするための、唇や舌、喉仏のコントロールができるようになる。 ・基礎的な音楽理論を理解する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・発声の仕組み、基本姿勢、音域チェック、声区基本発声
【前期】 5～8回目	・チェストボイス発声トレーニング(母音アオウエイ) ・音楽理論基礎(譜面の読み方)
【前期】 9～12回目	・ファルセット発声トレーニング(母音オ・子音FH) ・音楽理論基礎(調性・音階)
【前期】 13～16回目	・ヘッドボイス発声トレーニング(母音ウオイヤエ・子音GNM) ・音楽理論基礎(様々なリズム)
【前期】 17～19回目	・ヘッドボイス発声トレーニング(母音ウオイヤエ・子音GNM) ■前期試験: 発声の仕組み・自分の体の理解/チェストボイス・ファルセット・ヘッドボイスチェック/理論理解度チェック
【後期】 20～23回目	・ミドルボイス発声トレーニング・スライド ・音楽理論基礎(ハーモニー)
【後期】 24～27回目	・リズム発声トレーニング(クリック・オモテウラ・ファンク・三連系) ・音楽理論基礎(楽曲のジャンル)
【後期】 28～31回目	・子音発声トレーニング(唇音MBP・舌音SZTDNR・牙音KG) ・音楽理論基礎(楽曲の構成)
【後期】 32～35回目	・特殊発声トレーニング(ウイスパー・ビブラート・ディストーション)楽曲使用
【後期】 36～37回目	・特殊発声トレーニング(ウイスパー・ビブラート・ディストーション)楽曲使用② ■後期試験: 唇・舌・牙音の理解/リズム発声・特殊発声のチェック/理論理解度チェック
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 音楽理論理解 / 発声 / beat感 / 母音子音」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声は正しいトレーニングのもとに行われなくては、効果もなく逆に喉を傷めてしまいます。将来声の仕事に就くためにとても大切な科目です。発声に必要な様々な筋肉がありますが、セリフを言うときや歌を歌うときに自在に筋肉が使えるように、普段から鍛えておかなければなりません。正しい発声法を身につけて、無理なく自分の音域も拡げていきましょう。また、楽譜を渡されてもすぐに歌えるように、音楽理論も並行して学んでいきます。
備考	必要に応じて、CDや楽譜などを使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカル I		授業形態 / 必選	実習	必修
	学則別表上表記	ヴォーカル I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。業界歴13年で、ミッキー吉野(コダイコ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、基本的な発声、歌唱」の指導を行う。				
授業概要					
①歌唱のための基本技術(呼吸・発声・体の使い方)を学びます。 ②課題曲・自由曲を使って歌唱発声の強化・リズム感の強化をはかります。 ③上記で使用した楽曲を通じ、音感、ハーモニー感を学びます。 ④各コマで個人にフォーカスした時間を取り、弱点克服、長所強化をはかります。 ⑤12月のヴォーカルコンテストに向けてステージングの技術を学びます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 正しい発声、発音、呼吸、体幹を身に着け、表現力と共に歌唱全体のクオリティーを上げる。 オーディション等、今後、自身の武器として歌唱を使えるようにする。 ハーモニーなどを通じ、チームワークや調和を感じ協調性を育てる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	基本発声(音感、リズムトレーニングなど)。自由曲を各々選定し歌唱実技。問題点を洗い出し、今度のトレーニングなどを方向性を説明。
【前期】 5～8回目	基本発声(リズムトレーニングなど)。課題曲①歌唱実技。音楽の基本となる要素のうちリズムにフォーカスしてリズム感を身に着ける。
【前期】 9～12回目	基本発声(ハーモニー、母音・子音の発声)。ミュージカル曲①歌唱実技。メロディーの中で言葉を立たせる方法を学ぶ。
【前期】 13～16回目	基本発声(呼吸、音感、リズム、ハーモニーなどを総合して)。前期1～4週で取り扱った自由曲を再度歌唱し、当初からの違いを明確に感じる。また、その時にできなかった部分をさらに深めて修得する。
【前期】 17～19回目	基本発声(総合)。課題曲②歌唱実技。表現力強化。 ■前期試験：前期で使用した楽曲を各々選定し、歌唱実技発表。リズム、歌唱の楽譜提示、実演。
【後期】 20～23回目	基本発声(総合)。1月のヴォーカル大会の楽曲選定。課題曲③歌唱実技。表現、パフォーマンス強化。
【後期】 24～27回目	基本発声(総合)。1月のヴォーカル大会の楽曲の歌唱実技。表現、ステージング察。
【後期】 28～31回目	基本発声(総合)。1月のヴォーカル大会の楽曲のクオリティー強化。総合的なステージングの考察。
【後期】 32～35回目	基本発声(総合)。ミュージカル曲②歌唱実技。総合的なステージングの考察。実演。
【後期】 36～37回目	基本発声(総合)。年間の復習、総まとめ。 ■後期試験：後期で使用した楽曲の歌唱実技発表。リズム、歌唱の楽譜提示、実演。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ハーモニー / 発声 / 表現 / リズム / パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代の声優にとって、歌を歌うことはもはや必須のスキルとなっております。演技の勉強から歌に活かせることもありますし、歌から演技に活かせることもたくさんあります。シンガーとしてだけでなく、総合的なパフォーマーとして成長できるようにサポートしていきますので、一緒に頑張ってください。
備考	都度必要な楽曲、リズム・ハーモニー譜を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	殺陣パフォーマンス I		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	ボディサイエンス I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡を拠点に幅広いダンスジャンルで活躍中。2013年より某アーティスト専属バックダンサーを経て、AKB48、湘南乃風、倉木麻衣らと共演。現在はPVやCMに出演し、またミュージカル「刀剣乱舞」にも参加している。殺陣、バックダンサー、ミュージカルダンサー、振付師、ディレクターとしての活動経験を活かした講義内容となっている。				
授業概要					
<p>①筋肉トレーニング、ストレッチから始まり、自分の身体を使って感情を表現できるよう訓練していきます。</p> <p>②舞台やミュージカルに必要なアクションや殺陣を学びます。小道具の使い方や衣装の着付けについても学習していきます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・小作品やPV作品、舞台作品での身体表現技術を習得する。 ・ストレッチ、筋力を強化するとともに、殺陣の基本やバランスを習得し、身体の使い方・リズム感を養う。 ・舞台、ミュージカルやライブステージで演舞できるよう、音楽に合わせた殺陣やアクションのコンビネーションを用いて、自己表現をする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・ストレッチ・筋肉トレーニング・殺陣小道具の使い方
【前期】 5～8回目	・筋肉トレーニング・体幹トレーニング・アクション①・殺陣基本
【前期】 9～12回目	・殺陣小作品①
【前期】 13～16回目	・殺陣小作品② ・衣装着付け ・殺陣を使った小作品発表会→ライブウィーク発表
【前期】 17～19回目	・ミュージカルアクション小作品① ■前期試験：役3分間の殺陣基本や実践を発表する。
【後期】 20～23回目	・殺陣復習 ・ミュージカルアクション小作品②
【後期】 24～27回目	・ミュージカルアクション小作品③ ・フィジカルトレーニング
【後期】 28～31回目	・作品精度練成 ・衣装着付け ・アクション撮影、フィードバック①
【後期】 32～35回目	・アクション撮影、フィードバック② ・殺陣復習
【後期】 36～37回目	殺陣復習、自由演技 ■後期試験：ミュージカルアクションやフォーメーション、自己表現の発表。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 体幹と個性 / 集団創造力 / 間 / 脚本理解力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	表現をする上で、土台となる身体を形作ることは非常に重要です。 殺陣を通してフィジカルを鍛えながら、自己の技術や魅せ方を学び、相手との呼吸や間合いを感じて成長して行きましょう。 作品と一緒に作っていくことの難しさ、楽しさを学び、集団、個人問わず表現出来るようになりましょう。
備考	都度楽曲CDを使用。また小道具として、殺陣用刀・竹刀を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンス基礎		授業形態 / 必選	実習	必修
	学則別表上表記	ダンス基礎	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優養成コース/俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ダンス歴 18年、ダンスインストラクター歴 9年。 ダンスチーム Mool(モール)に所属。福岡を拠点に AKB48、KAZU(BROWN SUGAR)、比花知春、Alice、fumika 等のバックアップダンサーをつとめる。HIPHOP、JAZZなど幅広いジャンルで活動中。 上記のダンサーとしての経歴を活かした、幅広い表現力を養う講義内容となっている。				
授業概要					
<p>①ダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化しながら、リズム感を養っていきます。</p> <p>②基本的なステップと動きを反復練習します。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・進級公演や舞台脚本内でのダンス表現技術を習得する。 ・ストレッチ、筋力を強化するとともに、ダンスの基本ステップ、バランス、アイソレーションを習得、身体の使い方・リズム感を養う。 ・舞台、ミュージカルやライブステージで踊れるよう、ターンや基本ステップのコンビネーションを用いて、自己表現をする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・ストレッチ・アイソレーション・リズムトレーニング ・筋力強化・体力強化
【前期】 5～8回目	・ストレッチ・アイソレーション・リズムトレーニング ・筋力強化・基本ステップ
【前期】 9～12回目	・HIPHOP基礎を中心に ・アイソレーション、基本ステップ
【前期】 13～16回目	・HIPHOP基礎を中心に ・基本ステップを含んだ振り付けを覚える
【前期】 17～19回目	・基本ステップを含んだ振り付けを覚える② ■前期試験: アイソレーションや基礎ステップの2分ほどの振り付けを覚え発表する
【後期】 20～23回目	・JAZZ基礎 ミュージカル等で必要なJAZZの要素を習得する
【後期】 24～27回目	・HIPHOP応用 ・JAZZ応用
【後期】 28～31回目	・舞台発表に向けて※ダンスの振り入れ
【後期】 32～35回目	・舞台発表に向けて※ダンスの振り入れ、フォーメーション編成
【後期】 36～37回目	・フォーメーションレッスン ■後期試験: 応用ステップを含んだ3分ほどの振り付けを覚え、自己表現を交え発表する
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / アイソレーション / リズム感 / 基本ステップ / 自己表現」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年生では基本となるアイソレーションを中心にステップを覚えていきます。 舞台やミュージカル、ライブステージなど様々な分野で必要となるリズム感や身体を使っての表現力を磨いていきましょう。 そのためにも、身体能力の向上を目指して日々トレーニングしていきましょう。
備考	様々な楽曲を使用

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	表現パフォーマンス I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現パフォーマンス I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	(株)Applause代表、米国広報プログラムによりニューヨークにおいて'92年プロデュース研修。東京や福岡でコンサート、演劇やファッションショーなどの企画、制作やプロデュースを数多く手掛ける。大手プロダクションにおいて福岡のダンスヴォーカルユニット、モデルや俳優の育成からマネージメントまで幅広く活動中。上記のようにタレントの養成経験を活かした授業内容になっている。				
授業概要					
①基礎トレーニング(話す・聞く・読む・動く)を通じて、自分の得意・不得意を自覚していく。 ②得意を磨くことで一人一人の個性を伸ばして行く。					
到達目標					
・自分が参加する企画(舞台・映画・ドラマ)などの作品全体の主旨・ねらいを把握することが出来るようになる。 ・自分の役について作品に沿って役作りをする事ができる。 ・また、これらの事をメディア(インタビュー・MC・舞台挨拶)などを通して話す事ができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・言語表現と身体表現 ・自己紹介を、言葉バージョンとパフォーマンスバージョンで表現してもらい、そこからアドバイス
【前期】 5～8回目	・自己理解 ・自分の好きな作品(映画・ドラマ・本・CM・舞台・役柄)を原稿にしてまとめ、それを人に伝える事で自分の考えを整理していく。
【前期】 9～12回目	・トークトレーニング① ・与えられた時間内に収まるよう、原稿をまとめる。
【前期】 13～16回目	・トークトレーニング② ・原稿なしでも決まった時間内で、自分の言葉で要点を話す。
【前期】 17～19回目	・復習として自己分析をプレゼンしてもらおう。 ■前期試験:トーク実践及びレポート
【後期】 20～23回目	・表現トレーニング① ・好きな短編(台本・ドラマ・詩)などを読む。
【後期】 24～27回目	・表現トレーニング② ・ジェスチャー(身体表現のみ)で、与えられた内容(短いストーリー)を見ている人に伝える。
【後期】 28～31回目	・イメージ具現化 ・実際に、ストーリーを一人ずつ書いてもらい、ジェスチャーで表現する。
【後期】 32～35回目	・与えられたネタで、ジェスチャーを行う。
【後期】 36～37回目	・課題の短編台本を読み込み、台本の主旨をプレゼン、その後リーディングを行う。 ■後期試験:台本リーディング
評価方法	S(90点以上)/A(85点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(50点以上)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する実技試験により「読む / 話す / 聞く / 書く / 動く」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一人一人の良いところを伸ばす授業内容で、個性的な演技・パフォーマンスができるようになることを目指します。 また、個性を伸ばすとコミュニケーションも楽しくとれるようになります。表現というものを楽しんで学んでいきましょう。
備考	都度用意した原稿を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	俳優基礎 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	俳優基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	バラエティー番組のMCやラジオパーソナリティー、様々なイベントへの出演等、お笑い芸人として17年間活動。現在は、イベントMCを中心に活動しながらラジオ番組にも出演している。声優や俳優をゲストに招いたイベントにも多数出演しており、これらの経験を活かした講義を行う。				
授業概要					
<p>①トークの技術を磨きながら、役者としてトークイベントやバラエティ番組に出演した際の表現方法を学ぶ。 ②ラジオ実習を通して自分に合った表現方法を模索する。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・プロフェッショナルとしての俳優・タレントを知り、そこを目指すという自覚をもつ。 ・伝えるということに意識を持ちコミュニケーションができるようになる。 ・外部に向けた話し方、自己表現の仕方を身に付ける。 ・演習とフィードバックを繰り返し行う事で、自身の理想の表現に近づける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	トークをする際の心構え 自己表現トレーニング
【前期】 5～8回目	・自己分析 ・プレゼンテーション
【前期】 9～12回目	一対一でのテーマトーク ※撮影後フィードバック
【前期】 13～16回目	複数人でのテーマトーク※撮影後フィードバック ■前期試験:テーマトーク
【前期】 17～19回目	・ウィークポイントの確認 ・個人別自己表現トレーニング
【後期】 20～23回目	・ラジオパーソナリティー実習・プレゼンテーション
【後期】 24～27回目	・ラジオパーソナリティー実習・プレゼンテーション
【後期】 28～31回目	・ラジオパーソナリティー実習・プレゼンテーション
【後期】 32～35回目	・ラジオパーソナリティー実習・プレゼンテーション ■後期試験:ラジオ実技試験
【後期】 36～37回目	・ラジオ実習ふりかえり ・二年次へ向けて
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 自己PR/ 姿勢や魅せ方 / 授業に取り組む姿勢 / 言葉の表現力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	話し方やテンポ、声量など自身の理想に近づけるためには、現時点での自身の表現力を認識した上で様々な事に取り組む必要があります。 撮影した映像・収録した音声をしっかりと確認し、改善点を模索しながら理想の表現を実現させましょう。
備考	都度用意した原稿・本を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	映像演技 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	映像演技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 俳優養成コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	(株)Applause代表、米国広報プログラムによりニューヨークにおいて'92年プロデュース研修。東京や福岡でコンサート、演劇やファッションショーなどの企画、制作やプロデュースを数多く手掛ける。大手プロダクションにおいて福岡のダンスヴォーカルユニット、モデルや俳優の育成からマネージメントまで幅広く活動中。上記のようにタレントの養成経験を活かした授業内容になっている。				
授業概要					
<p>①舞台と映像の共通点と違いを学ぶ。 ②映像のカメラワークを学びながら動き(移動・立ち位置)から感情表現(表情・所作・動作)を学んでいく。</p>					
到達目標					
<p>・脚本の読み方を学びながら、演技の構築・分析ができる言語を獲得する。 ・映像作品としての存在感・被写体としての意識を養う。 ・映像でしか表現できない微妙な台詞回し、表現の変化など所作も含めて、どんなカメラワークにも対応できるようになる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・舞台と映像の共通点と違いについて。
【前期】 5～8回目	・カメラワークについて。
【前期】 9～12回目	・カメラを通して自分の顔・動作の確認。
【前期】 13～16回目	・喜怒哀楽を何パターンか繰り返し、表情を豊かにする。
【前期】 17～19回目	・喜怒哀楽を「部屋に入って出る」という流れの中で表現していく。 ■前期試験:感情表現
【後期】 20～23回目	・課題の台本に沿って台詞を言いながら、表情を少しずつ変化させていく。
【後期】 24～27回目	・一つの台詞を喜怒哀楽に変化させていく。
【後期】 28～31回目	・一つの台詞を変化させる時に、身体表現と顔の表情があっているか、特に手の動きが遊んでないか。
【後期】 32～35回目	・2人で机に向き合っの台詞のやり取りを、残りの学生がワンカムで撮影していく。
【後期】 36～37回目	・撮影エリアを決めて、ひとりの台詞から2人、3人と複数にして、3人の移動や台詞のやり取りを変化させていく。 ■後期試験:短編映像作品(撮影)
評価方法	S(90点以上)/A(85点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(50点以上)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する実技試験により「台詞の意味 / 感情表現 / 表情 / しぐさ / 声の出し方」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	まずはカメラを気にせず、かつ、カメラに入る演技ができるようになることを目指しましょう。 また自分たちで撮影もしながら、視聴者の目線にたって芝居を楽しんで学んでいきましょう。
備考	都度作成した原稿等使用。